

# 平成30年度事業報告

【総務部】 部長 萩尾耕次 理事 和田政利 吉田健太郎 河原賢二  
委員 秋吉正道

- 1 制度対策に対する事項  
制度対策及び連合会からの伝達等に対し、各部と連携を図り迅速に対応した。
- 2 会員の品位の保持のための指導及び連絡に関する事項
  - (1) 全体研修会時に懲戒事例を公開し、倫理の周知徹底を行った。
  - (2) 県会に寄せられる苦情案件の数、状況及び懲戒情報、注意勧告情報を県会ニュースやホームページ等により会員へ可能な限り通知し、会員へ注意を促した。
  - (3) 綱紀委員会と連携し、土地家屋調査士会総務担当者会同に参加し、情報共有を行った。
- 3 会員の執務の指導及び連絡に関する事項
  - (1) 県会ニュース等により情報伝達を行った。戸籍謄本・住民票の写し等職務上請求書を、土地家屋調査士法第3条業務以外で使用をされている会員及び使用簿の記載の仕方に、不明瞭な部分がある会員に対して注意を行った。
  - (2) 会員事務所への訪問を通して、県会からの情報を直接伝達し、また本会への意見・要望、業務に関する提案等を収集した。(17名の会員を訪問した。)
  - (3) 会員が業務において知り得た個人情報等の取扱いについて、メールにて指導及び連絡を行った。
- 4 会員の入会及び退会その他人事に関する事項  
本会への入会予定者に対し、登録前に正副会長、総務部長にて面談を実施した。入退会の手続き等に関しては、会則や規則に基づき適切に対応した。
- 5 本会が所有する会員の個人情報の公開に関する事項  
懲戒処分等に関しては、本会の「情報公開に関する規則」及び「情報公開に関する細則」に則り、ホームページ上で公開した。また、関係機関等からの問い合わせに対しても規則等に則り対応した。
- 6 本会及び会員の個人情報の保護に関する事項  
本会が所有する個人情報の保護について「個人情報の保護に関する規則」、「特定個人情報取扱規程」及び「特定個人情報取扱細則」に基づき適切な管理を行った。
- 7 会員の業務等に対する苦情相談及び紛議の調停に関する事項  
一般から本会へ寄せられる苦情に対し「苦情相談取扱規程」に基づき、総務部で対応した。平成30年度に寄せられた苦情事件は、全部で5件であった。また、紛議の調停に対する請求はなかった。
- 8 非調査士等による調査士業務の排除に関する事項
  - (1) 平成22年4月より施行された土地家屋調査士法施行規則第39条の2による法務局からの調査依頼については、各支部と連携して本局、北九州支局、西新出張所、福岡出張所の4カ所にて調査を行った。
  - (2) 土地家屋調査士法第68条の対応として、業務部と連携して関係官公署にパンフレットを送付した。
- 9 その他、他の部の所掌に属さない事項
  - (1) 会則、規則、規程等について検討を行い、改正された規則等についてはホームページ上のデータの更新を行った。
  - (2) 制度対策委員会に対し、必要な助言を行った。
  - (3) 「ワイドエリアネットワーク会議」が平成30年9月7日・8日、宮城において開催され、野中会長他2名が出席し、会務執行の意見交換を行った。
- 10 支部との連携に関する事項  
支部長会議等において、意見交換を行った。

**【財 務 部】** 部長 村山隆徳

- 1 福利厚生及び共済事業の充実
  - (1) 親睦事業への支援  
支部合同親睦事業へ支援を行った。  
実施支部（福岡中央、南福岡、東福岡、西福岡、筑紫、直方、飯塚、田川）  
同好会への支援については、本年度申請が無かった。
  - (2) 健康に関する支援  
各支部で行われた、健康診断に対し支援を行った。  
開催支部（福岡中央、南福岡、西福岡、柳川、大牟田）
  - (3) 国民年金基金の加入促進  
県会ホームページ、県会ニュースを利用し加入促進を行った。
- 2 会計監査事務への対応  
平成 30 年 4 月 16 日に行われた平成 29 年度下期の期末監査、及び平成 30 年 10 月 15 日に行われた平成 30 年度上期の中間監査への対応を行った。
- 3 事業予算執行状況の把握・助言  
毎月、会費入金状況・支出伝票及び予算執行状況を確認した。
- 4 県会の財務状況を検討  
会費収入における各部事業予算について検討した。

**【業 務 部】** 部長 佐藤周作 理事 内平晃二 野田馨

- 1 会員への情報伝達及び業務指導
  - (1) 土地家屋調査士の業務に関する情報に対応し、会員に伝達を行った。  
また、所有者不明土地に関するガイドラインを作成した。
  - (2) 会員からの業務に関する質問に対応した。
  - (3) オンライン申請の利用を大幅に促進するため会員への周知及び指導を行った。
- 2 公共基準点の使用承認、認定登記基準点への対応
  - (1) 不動産登記規則第 77 条の公共基準点の利用について、引き続き各市町村への包括使用承認を行い、基準点使用報告書提出の徹底をHPおよび研修会において会員へ周知した。
  - (2) 本年度は認定登記基準点の申請はなかった。
- 3 官民境界等への対応
  - (1) 官民境界に関する改善点を把握し、必要に応じて担当官公署へ協議や要望を行い、会員へ周知した。
  - (2) 官民境界に係る境界標保全のお願いを、継続して担当官公署へ行った。
  - (3) 市町村に土地所有者等不明時の依頼書に関する協議や要望を行った。
  - (4) ホームページに掲載された県内各市町村等の官民境界協議書類を精査・検討した。
- 4 不動産登記法第 14 条地図作成作業（従来型・大都市型）への対応  
法第 14 条地図作成作業について、法務局と協議を行い対応した。
- 5 福岡法務局との協議会等の開催
  - (1) 表示に関する登記事務について福岡法務局と事務連絡協議会を行い、業務に関する問題点等を協議し、会員へ周知した。
  - (2) 業務等に関する問題点について、必用に応じて協議を行った。
- 6 対外的業務活動
  - (1) 土地家屋調査士法第 68 条（非調査士）の周知徹底  
総務部と連携して、土地家屋調査士法第 68 条について引き続き徹底を呼び掛けた。

- (2) 公共嘱託登記土地家屋調査士協会との協議会開催  
公共嘱託登記土地家屋調査士協会と協議会を開催した。
- 7 適正な業務と報酬の分析  
報酬額の運用における実態調査及び統計資料の作成を行った。
- 8 空家等対策の推進への対応
  - (1) 福岡県空家対策連絡協議会に有識者団体として参加した。
  - (2) 県内各市町村に、空家等対策の推進に関する特別措置法第7条に基づく市町村協議会の構成員として、活動できるように啓蒙活動を行った。

**【広 報 部】** 部長 池田直之 理事 吉田新一 本田和男

1 対外的広報

(1) 無料相談会

行政評価局主催の「くらし・行政相談」については、毎月第一金曜日の当番日に天神岩田屋において、また、5月・8月・11月・2月の第二水曜日には小倉井筒屋において相談会の対応を行った。

7月31日の「土地家屋調査士の日」は広報部理事により無料相談会の開催を実施した。

10月1日の「法の日」を中心日とし、各支部協力のもと無料相談会を実施し、県会から助成を行った。また、法務局主催の「休日無料相談所」については、調査士会として協力をを行った。

今年度も毎週北・中・南部で実施された無料相談会の体制を整えた。

- (2) 新聞紙面を活用し、調査士制度・ADR・相談会等の案内広告を行った。
- (3) 福岡県下の市町村庁舎に制度広報のポスターを設置し、広報活動を行った。
- (4) 行政機関で発行されている広報誌に、無料相談会等の告知広告を掲載した。
- (5) 各支部の地域貢献活動に対して県会より助成を行い、地域に根付いた広報活動を行った。
- (6) 制度広報クリアファイルを作成し、全会員に配布した。

2 対内的広報

(1) 1月に冊子版の会報「ふくおか」を発刊した。

(2) 昨年リニューアルされたホームページによりスケジュール・伝達事項（県会ニュース）等の告知をした。ホームページ内の各項目について精査を行った。また、ホームページの動作状況を確認し、処理速度の改善を行った。

**【研 修 部】** 部長 武井俊幸 理事 末松敏行 神田充郎 松岡康広

県会主催の各種研修会の企画・運営を行った。

全体研修会は、電子会議システムを利用して、サブ会場・支部会場へ配信し行った。

専門研修会は、隣接する関連法令、業務行っていく上で必要な知識及び筆界判断に関する知識向上を目的に開催した。

新入会員研修会は、研修の充実を図るため2日間の開催とし、専門職として新入会員の倫理、実務知識の向上を目的として開催した。

新人実務体験研修は、受講の応募があったので、講師として選任した会員事務所に配属形式の研修を行った。

補助者研修会は、補助者の倫理及び資質の向上を目的として開催した。

1 全体研修会

本年度は2回行った。参加者人数は第1回が678名中418名、第2回が678名中371名参

加した。支部にて研修会会場開設を行って頂いた支部は、第1回が8支部、第2回が8支部であった。

2 専門研修会（有料）

本年度は3回行った。各会参加人数は第1回が23名、第2回が23名、第3回が25名全71名の参加であった。

3 支部研修会

実施された支部は16支部中9支部であり、各支部の参加者1名につき1,000円の補助金を交付した。

4 新入会員研修会

平成31年3月1日（金）、2日（土）県会2階会議室において、平成28年1月以降に入会し、当会の新入会員研修会を受ける機会がなかった会員（参加者11名）を対象としての研修会を開催した。

5 新人実務体験研修

研修希望者の申し込みが1名あり、平成30年7月から約3ヵ月間実施した。

6 補助者を対象とした研修会（有料）

平成30年12月7日（金）リファレンス大博多ビル貸会議室にて、補助者規程に基づき、補助者（参加者46名）を対象とし、倫理及び資質の向上を目的とした研修会を開催した。また、補助者規程の一部改正を検討した。

7 土地家屋調査士専門職能継続学習（土地家屋調査士CPD）制度への対応

各研修の受付において、出欠・入退出の時間管理を行い、日本土地家屋調査士会連合会のCPD管理システムに対応し、県会ホームページで公開した。

【各研修会の詳細は開催概要参照】

【社会事業部】 部長 西牟田弘也 理事 高岡知広 奥永尊仁 御厨美壽

1 筆界特定制度への対応

(1) 福岡法務局との協議会

平成30年10月17日にADRセンターふくおかと合同で協議会を行った。

(2) 境界鑑定実務の資料収集と研究

資料センター保管「地域の慣習」資料の精査を行い県会ホームページに掲載した。

2 社会貢献事業の構築・推進

(1) 社会連携講座

西南学院大学にて社会連携講座を平成30年9月より開講し、全15回講義を開催した。

九州大学にて社会連携講座を平成30年10月より開講し、全15回講義を開催した。

(2) 防災ネットワークの構築

福岡県と福岡県公共嘱託登記土地家屋調査士協会との三者で災害時における復興支援に関する災害協定を締結した。

福岡専門職団体連絡協議会の災害被災者支援制度勉強会に参画した。

3 専門研究所への対応

専門研究所の研究について支援を行った。

4 福岡専門職団体連絡協議会（業際ネットワーク）

(1) 第28回定期大会への参画

平成30年9月3日に開催された第28回定期大会は、当番会が九州北部税理士会で、本会から19名が参加した。内容としては、第一部で定期大会、第二部で講演会、第三

部は懇親会が開催され、他士業との交流を深めた。

(2) 共同相談会への支援

平成 30 年 6 月 2 日に開催された県下 4 地区での「くらし・事業なんでも相談会」と  
当会担当で中央地区の 9 月 8 日、12 月 8 日に開催された「くらし・事業なんでも相談  
会」は、運営委員各位、会員皆様の協力のもと実施した。

(3) 不動産研究会・企業法務・会計部門研究会への支援

不動産研究会が継続的に実施している発表会において、平成 30 年 6 月 21 日の発表  
では、西福岡支部の池之上幸輝会員に「境界を巡る紛争について」平成 31 年 1 月 17  
日の発表では、北九州支部の牧田一秀会員に「何故、堀は越境していたのか？ 2 つの  
境界を知る」のテーマで発表を行なって頂いた。

(4) 士業間親睦事業への支援

専団連が実施した親睦事業（ボウリング大会及び懇親会）への支援を行った。

専団連の同好会（ゴルフ同好会、囲碁同好会）への支援を行った。

(5) 専団連ホームページの更新への支援

広報活動の一環として専団連ホームページの更新への支援を行った。

(6) 新規・若手会員交流会への支援

「新規・若手会員交流会」として平成 30 年 4 月 5 日に天神の QUANTIC にて各  
士会新規・若手会員 114 名参加による交流会が行われ、本会参加会員に対し支援を  
行った。

5 福岡法務局土地家屋調査士インターンシップへの対応

次年度に向け法務局と協議を行ない、インターンシップへの対応を行なった。

6 「境界問題解決センターふくおか」への支援

境界問題解決センターふくおかを所管し、センターへの支援を行った。

7 災害時等危機管理に関する整備・対策の検討

本会の危機管理規則案及び事務局危機管理マニュアル等の検討を行ない、個人事務所危  
機管理についてはマニュアル案を作成してHPに掲載を行った。

**【紛議の調停委員会】** 委員長 城 信二 副委員長 松永 等 外 9 名

1 紛議の調停委員会

平成 30 年度は紛議調停申出が無かったため、委員会は開催しなかった。

2 勉強会

平成 30 年 11 月 15 日に県会会議室において勉強会を開催した。